



2013 Vol.56 Spring

# ACCESS

～医学生と鹿児島民医連の情報誌～

## 特集

新入生へのメッセージ

医学生の歩み・民医連企画紹介

素敵女医のライフスタイル

奄美からのメッセージ

私の趣味

## ご案内

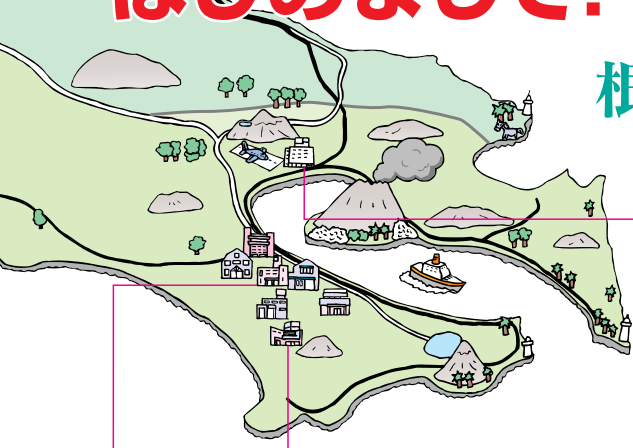
- 春期病院実習のご案内
- 鹿児島民医連奨学金制度のご案内
- 医系学生サポートセンターのご案内
- ホームページのご案内
- ブログのご案内





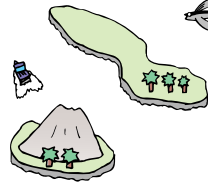
# はじめまして! 鹿児島県民医連です

## 根ざすは地域、 目指すは世界...



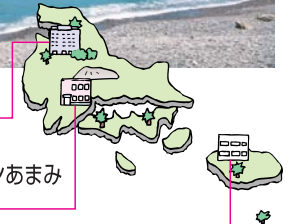
### 国分

国分生協病院  
生協訪問看護ステーションこくぶ



### 奄美大島

奄美中央病院  
生協訪問看護ステーションあまみ



### 南大島診療所

生協訪問看護ステーションせとうち  
老人保健施設せとうち

### 徳之島

徳之島診療所  
生協訪問看護ステーションあまぎ

### 川辺

川辺生協病院  
生協訪問看護ステーション万之瀬

### 鹿児島

- 臨床研修指定病院  
総合病院鹿児島生協病院
- |             |                   |
|-------------|-------------------|
| 鴨池生協クリニック   | 谷山生協歯科クリニック       |
| 紫原生協クリニック   | 生協訪問看護ステーションかもいけ  |
| 坂之上生協クリニック  | サテライト訪問看護むらさきばる   |
| 谷山生協クリニック   | 生協訪問看護ステーションたにやま  |
| 中山生協クリニック   | サテライト訪問看護にじ       |
| 吉野生協クリニック   | 特別養護老人ホームにじの郷たにやま |
| 生協歯科クリニック鴨池 | (株)メディコープ         |

### ○情報誌

#### 「ACCESS」の紹介

医学者と鹿児島県民医連の情報誌 ACCESS は春、夏に年2回発行されています。鹿児島県民医連や鹿児島生協病院などで企画される病院実習や学習会、フィールドワークの案内や医療情勢、社会情勢などのコラムなど幅広い内容を提供しています。医学部の6年間はあっという間に過ぎていきます。学生時代にしか経験できないことを思い切り楽しんでみませんか? ACCESS がその架け橋になれば幸いです。

「民医連」とは...

第二次世界大戦直後の日本は、社会全体が荒廃し、飢餓と感染症がはびこり、一方で医師をはじめとする医療専門家や医療機関などの数が非常に乏しい状況でした。

そのようななか、貧困などによりまともな医療に恵まれない人々の切実な願いに応えるべく各地で生まれた医療機関の全国的な集まりが、1953年に発足した民医連(全日本民主医療機関連合会)です。民医連には、その共通の目標である、綱領(裏表紙参照)があり、その目標をめざして活動しています。特に、患者を経済的な理由で差別しないという方針から、今では当たり前となっている個室料や差額ベッド料といったお金を徴収しないなどの取り組みをつづけており、マスコミからも注目されています。

現在、民医連に加盟する事業所は、全国の47都道府県に1700カ所を超え、約6万2千人の職員と、医療生活協同組合員や友の会会員約318万人の方々が、ともに保健・医療・福祉の総合的な活動安心して住み続けられるまちづくり運動を進めています。

# 新入生へのメッセージ



鹿児島生協病院  
院長 長谷 康二

## 新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

難関の医学部に合格して今の心境は、ほっと安堵の気持ちでしょうか。あるいはこれからの学生生活への希望でわくわくしているでしょうか。

思えば、私が医学部に入学したのは30年以上前のことになりました。当時は、各県に医学部が設立され、まもなく医師過剰時代が到来するといわれていました。現在、毎年8000人もの医学部の定員があります。しかし、日本の医療の現場は医療機関の地域偏在、診療科による医師数の不足など社会問題となっており、これはご存じの通りです。医学医療も発展しましたが、社会の発展とともに医療の現場も形を変えて求められるものが多様化・専門化してきており、30年前の大方の予想（正確には当時の厚生省とは、かなり違った状況を迎えています。また、医学は科学の進歩によって更なる可能性が大きく広がっています。ノーベル賞を受賞した京都大学の山中教授のiPS細胞の開発でまた新

たな展開が予想され、近い将来、医療の現場も様変わりしていくことでしょう。

山中教授といえは、iPS細胞の技術が広く世界中の研究者に利用され、多くの患者を救うものになるよう特許申請を行い、独占使用されないために最大限の努力をしたこともよく知られています。ノーベル賞授賞の報告を受けたときの最初のインタビューで「私たちはこの研究で、まだ1人の患者さんも救っていない。来週からまた仕事に専念したい」と語られたことに感銘を受けた人も多いと思います。日本では理解の少ない研究者の身分保障や資金提供への協力をインタビュウのたびに訴えておられます。自分の発見が世の中のために役立つことを何より望んでおられる姿勢はほんとうに感銘を受けます。

皆さんがこれから学ぶ医学・医療は世のため人のためになつて初めてその目的を達成するものです。科学サイエンス

としては、医師として患者を救うための知識や素養を必要十分なレベルまで到達させることが必要になります。そして、医師に必要な技術（アート）を身につけることで患者さんを救えるようになります。医療の現場は様々な制約の中にあります。場所によってその目的も違います。そのすべてを知ることは難しいですが、学生の時に多くのことを学び、医療の現実にも触れてほしいと思います。

私たちは、「地域医療」ということにこだわりを持って鹿児島の地で仕事をしています。離島にも病院・診療所を構えてその地域の人々の健康を守ることに日夜奮闘しています。私たちの使命も一人でも多くの患者さんの命を救うこと、健康を守ることでありと考えています。現場の見学や実習から離島医療体験など様々な企画を準備していますので、是非在学中に訪ねてきてください。待っています。



# 医学生の歩み

## 大学だけでない学びのフィールド

民医連には学生を対象にした学びの場や活動がたくさんあります。大学で学ぶ医学知識だけではなく地域医療の現場や、社会的弱者の存在、それを取り巻く社会の現状を学ぶ事で人間の

幅が広がりより良い医療や社会の実現に寄与できる医師に成長して欲しいからです。学年を問わずに気軽に参加出来る企画がほとんどです。皆さんの参加をお待ちしています。



4月  
5月  
6月  
出合いの春

### ●健康チエック交流会

医療生協の組合員さん達を中心に、地域の方の血圧測定など簡単な健康チエックを行い、保健予防活動を体験します。地域の方から医学生への熱い期待も語られ医師を目指すモチベーションが早くもアツプします。



▼はじめての血圧測定!

### ●診療科体験企画

(小児科、外科、整形外科、救急総合、離島等)

診療の様子を見たり、医師としての心構えを学んだりしながら、医療の現場を体験できます。是非、医師への第一歩を踏み出してみませんか。

離島医療体験では、鹿児島民医連のルーツでもある離島診療所の医療を、是非体験して下さい。終了後は医師との交流会もあります。



▲奄美の住診



▲いざ奄美へ!!

▲はじめての聴診



7月  
8月  
9月  
体験の夏

●つどい

〜民医連の医療と研修を考える医学生をつどい

医学生が全国から集まり、2泊3日で行われます。通称「つどい」と呼ばれ、参加学生だけで200名、医師や看護師などの参加する民医連職員も含めると400名規模となり民医連の医学生企画でも最大級です。全国に仲間を作る大きなチャンスです。昨年は「原発問題から医療と生活を考える」をテーマに岩手県花巻市で開催されました。

●8月中旬 ●場所未定



●夏期離島フィールド

私達、鹿児島民医連は「地理的な離島はあっても人の命に離島があってはならない」をスロガンに本土復帰間もない奄美大島で活動を開始しました。離島フィールドは鹿児島民医連の原点である「離島医療」をじっくり見ることが出来る歴史あるフィールド企画です。フェリーで一晩かけて離島へ行き、離島の医療や生活背景をケースワーク（在宅患者の訪問調査）などを通じて学習します。離島診療所や

病院で医療にあたる青年医師やスタッフが皆さんを待っています。離島医療を学ぶことはもちろん、一緒に行った仲間と将来の夢や医師像を熱く語り明かすのも醍醐味です。

- 8月下旬頃
- 奄美大島他
- 自己負担1万円前後



◀健康チェック中



▲行きのフェリーにて

# 医学生の歩み

10月  
11月  
12月  
成長の秋



## ● KOMSA(コムサ)九州・沖縄医学生のことば

夏に行われる全国の「ことば」に対し九州・沖縄の医学生が集まる九州版「ことば」KOMSAとは「九州・沖縄医学生のことば」(Kjusyu Okinawa Medical Student Association)の略称です。50名規模で全国に比べると小規模ですが、学習内容は充実しています。昨年は「どうなるの? 基地問題」がテーマで、おつきな和〜をテーマに沖縄で開催されました。



## ● 奨学生会議

毎月、サポートセンターに集まり医師を講師に招いて、学習会や懇談会を行なっています。昨年は、鹿児島生協病院の医師を招き「私と民医連」というテーマで、医師になるうと思っただきかけ、学生時代・研修時代、そして医学生にこれから期待することについて熱く語って頂きました。

奨学生だけでなく誰でも参加できます。まずは見学だけでも構いませんのでお気軽にお越しください。



▲中村Drによる「私と民医連」



● 毎月第3木曜日  
18時半

1月  
2月  
3月  
飛翔の冬

## ● 奨学生生活活動報告(全職員集会&新年会)

鹿児島医療生協の全職員集会に参加し、奨学生としての活動報告や、KOMSAで勉強してきた事などを医療生協の職員に発表します。職員と交流を深めるいい機会となっています。



▲奨学生の活動報告



## ● 病院実習

冬休みや春休み等の期間中に、病院実習に参加できます。それぞれの希望に合わせてカリキュラムを組む事が出来、大学で勉強した事が実際の医療現場で再確認出来たり、新たな発見が出来たりと、モチベーションアップにも繋がります。病院の先生方との交流も色々なお話が聞けて楽しいですよ。



▲手術見学

## ● 奨学生合宿

毎月の奨学生会議で学習してきた事を更に深める為に合宿をし、将来も一緒に働く仲間としてお互いの夢を語り合います。2012年度は「私と民医連」をテーマに、先輩医師と交流を深めて来たことを踏まえ、今後の自分たちの医師像についてディスカッションします。霧島にて合宿予定です。もちろん観光もありますよ☆





# 学習会

年間を通じて様々な学習会を行っています。  
どなたでもお気軽にご参加下さい。

## 臨床診断学ワークショップ

医師国家試験はあらゆる情報から一つの答えを当てる、いわばクイズです。ところが実際の臨床現場では「患者の訴えからいかに鑑別疾患を挙げられるか」などのようにして情報を引き出し、診断にアプローチするかなどの判断が重要になります。臨床診断学ワークショップでは一問一答では決して得られない力を身に付けるために、臨床にできるだけ即し、模擬患者との医療面接や鑑別診断、臨床疫学を基にした検査オーダー、医療費の計算など一連の診察の流れを参加型の形式で学習します。少しでも「臨床力」を付ける手助けになればと考えています。



▲グループごとに  
ディスカッション



## 生化学学習会・ OSCE学習会

1年生の山場である生化学試験、4年生のOSCE等、学生からの要望に応え、医師が講師となり、学習会を開催しております。大学の授業では分かりにくかった部分も気軽に質問できますよ。開催日程は、ホームページにて随時紹介中！



## CPC(臨床病理検討会)

臨床診断から病理解剖に至るまでの検査結果等の病状経過を医師だけでなく、看護師や薬剤師など関わったスタッフが患者さんや家族の思いまでをまとめた、とても充実した症例検討会です。病理や解剖に興味のある学生さんはどなたでもお気軽にご参加下さい。



# 素敵女医の ライフスタイル

読者からの  
ギモンに  
お答えして

「女医さんたちは、結婚・出産とキャリアアップ、どのように両立させているの？」今回、鹿児島生協病院で働く4名の女医に、結婚やその後の働き方、両立するための工夫について伺いました。



鹿児島生協病院 研修医1年目 **渥美 陽子** (2012年入職/鹿児島大学卒)

初めまして。鹿児島生協病院1年目研修医の渥美です。今回は「女医の結婚・出産・子育てについて」という原稿依頼があったので、僣越ながら私の経験などを書かせていただきます。

私は大学5年の時に学生結婚および出産をしました。マイアミに1年留学したことで1学年遅れているので、それ以上の留年はどうしても避けなくて、産後3週間でポリクリに復帰しました。今振り返っても本当にハードな日々で、何度かポリクリ中に倒れたこともありました。主人が専業主夫で育児と家事をサポートしてくれのおかげで、その後もなんとか卒試・国試に合格し、無事に医者になることができ、現在研修医1年目として鹿児島生協病院でお世話になっています。現在、2歳の娘がいますが、主人が家事と子育てを全面的に協力してくれているので、私は好きな仕事が毎日できてとてもありがたいです。たまに、もう少し娘と一緒にいる時間が欲しいなあと思うときもありますが、その分一緒にいる時間を充実させるように心がけています。また、鹿児島生協病院は入職前から子育てする女医さんに優しいという評判を聞いていたのですが、実際に研修を始めてみて、ローテーション先の科や様々なところで配慮していたので、うちの病院を選んでよかったと思い、いつも本当に感謝しています。将来は産婦人科を目指していますが、仕事と家庭の両立をどうすればできるかが大きな課題です。

女性医師のキャリアと結婚・子育ては、大きなテーマですが、自分が何を一番大切にしたいのか、どんな将来像を持っているのかを、結婚前からしっかりと考えておくのがいいのかなーと思います。まあ、私は行き当たりばったりでなんとなくうまくいったという感じなので、あんまり説得力はありませんが…(笑)これから結婚・出産を考える全ての女子医学生、女性医師のみなさんが、キャリアや家庭など、ご自分が目指す目標を達成できるよう、心からお祈りしています。





鹿児島生協病院 眼科 医師 福留 みのり (2003年入職/鹿児島大学卒)

みなさん、こんにちは！

鹿児島生協病院で眼科医として働く女医、福留みのり  
35歳、2児の母です。

鹿児島大学卒業後2年の初期研修を経て、3年目から熊本の出田眼科に眼科専門研修へ。5年の研修を終えて、3年前に鹿児島生協病院へ帰って来ました。

その間、いろいろな女医(女子)としてのイベントや決断がありました。

まずは研修2年目に電撃的な男性(今の主人ですか)との出会いがあり、3年目の眼科専門研修突入と同時に入籍。

主人は鹿児島の小学校の先生で、熊本に最も近い小学校に転勤となり、新幹線通勤までして私を支えてくれました。理解のある男性に出会い、ラッキーでした。

眼科研修3年目で1人目の子を妊娠し、出産、産後3か月後くらいから復帰し子供は保育園へ。理解のある研修先で授乳時間を3回もらい、保育園へ授乳に通いました。眼科医として手術を身につけなければいけないので、あまり長い産休や育休はとりませんでした。

その後2年がたち、2人目を妊娠。この時主人は遠距離通勤で遅く帰ってくるのでなかなか家の事までではできず、仕事をしながらの2人の子育ては難しいなと感じ、ちょうど5年の研修も終了となる時期だったので、実家がある鹿児島へ帰る決意をしました。

鹿児島に戻って2人目を産出し2児の母となりマラは大変さが増しました。主人はマラに忙しい小学校に転勤となりあてはできず、ということで、鹿児島に帰って2年目から、自分の母親と同居することになりました。帰ったら食事があり、子供が病気になるたら面倒をみてくれるなと本当に助かります。



やはり、仕事をしながら子育てをするにはどれかの手助けが必要になることは女医にはつきものだと思います。私は幸いなことには自分の母親が手伝ってくれますが、家政婦を雇ったり、ご主人が手伝ってくれたり女医さんはそれぞれ工夫されているようです。

結婚はまだ好きな時でいいですが、出産はタイミングが難しいと思います。希望の科によって様々だと思いますが、やはりある程度は医師として経験を積んでからの方が、産後は子育てがとて大変になってくるので、いいのかなと思います。

私のつたない経験からですが、みなさんの参考になればいいなと思います。



鹿児島生協病院 総合内科 医師 小谷 ゆう子 (2006年入職/大分大学卒)

私は現在、鹿児島生協病院・総合内科で内科医師をしている小谷ゆう子です。2006年大分大学卒業で、医師になり7年目になります。現在は、内科医として、一般外来や糖尿病外来、病棟医、入院患者担当を行っています。

私も医学生時代、漠然と結婚や子育てに対する不安があり、医学生ゼミナールなどで、友人と語り合ったりしたものです。

私の場合は、初期研修中は、とにかく、仕事を覚えるのに必死で、平均すると夜家に帰るのが10時くらいで、休日も入院患者まんのことが気になり出勤していましたので、仕事をすだけで精一杯でした。後期研修医になり、奄美大島の名瀬にある奄美中央病院での勤務が始まってからは、医師として3年目になり、仕事にも余裕が出来て、だいぶ自分の時間が持てるようになりました。常々結婚願望があった私ですが、周りを見渡しても既婚者や恋人がいる方はかりで、このままでは一生出会いがない(汗)と感じた私は、世間の流行に遅れず、婚活を始め、社員である今の主人と知り合いました。当時は遠距離恋愛だったため、月1回の鹿児島への出張を楽しみに仕事を頑張ったものです。

医師になり5年目には、川辺生協病院に転勤になりました。のんびりとした、田んぼに囲まれた病院です。地域の患者様達からの信頼も厚く、外来や入院、往診と、かかりつけ医として役割を果たすうちに、家庭医療への興味が強くなりました。川辺勤務時代に無事に結婚することが出来、現在に至ります。

仕事と家庭の両立については、やはり主人の協力なしでは家庭は成り立ちません。お互い得意な家事を中心に分担するのが我が家のやり方です。仕事で帰りが遅くなるのがあるため、平日の夕食は宅配サービスを利用し、手料理は週末に楽しんでいます。

現在、鹿児島生協病院での勤務に慣れてやっとゆとりが出てきたため、昨年より内科学会認定医受験の準備を始めました。夜は疲れてぼーとしていたため、朝4時に起きて、2時間勉強をしています。今流行の朝活というやつです。また、以前から興味があった家庭医療の勉強を、専門医をもっている中村太一先生のもとで学んでいます。ポートフォリオという症例報告作成にも取りかかっており、将来は自分も専門医を取得し、鹿児島生協病院を中心として家庭医療研修を充実させていくことをライフワークにしたいと考えております。

慌ただしく毎日過ぎていき、落ち込むこともありますが、職場の仲間や患者様や旦那様に励まされながら、頑張っています。皆さんも、目の前にあることに一生懸命に取り組み、前へと進んでいってくださいます。応援しています！



家庭医療チームです



# 素敵女医のライフスタイル

鹿児島協病院 内科・内分泌 医師 佐々木 直子 (1991年入職/鹿児島大学卒)

医学部の学生時代、同級生女子と冗談混じりに「お嫁さんが欲しいよね」と話していました。外科の講師ドクターからは、「女は結局辞めるから、出来が悪くても男の方がいい」と言われたりもしました。(ま、そういう時代でした)

女性も普通に仕事をしつつ家庭も持って、というのは当たり前のように考えられていますが、それでも「お嫁さん」がいる男性医師と、家庭持ち女性医師が全く同じ条件で働けるわけではないと思います。女性医師といっても先輩ドクター達のように、家のこともほぼこなしてバリバリ働くスーパーウーマンもいれば、私のように家事が苦手で、家のことは実は何でも夫がやってくれる方が早い！というへなちょこ女医もいるワケです。まあ、医師という職業に関わらず、自分のできることを無理なくやる、というのが良いのでは、と思いますね。皆が同じようにしなければならぬということはないと思うんです。

ともあれ、この年までこうに働き続けることができるのは、周囲のサポートがあってこそ。子どもが小さいうちは特に、ですね。しょっちゅう熱を出して(ホント保育園に預けた当初は例外なく熱発するんです)その度迎えに行くんですが、「何でこんな思いまでして働かんといかんのよ…」と情けなくなり、連絡帳で弱音を吐いては担任の先生から「働くお母さんはみんなそうおめられるようです。大変でしょうが、応援しています」といわれるの言葉をもらって涙したこともあります。夫はもちろん、保育園しかり、夜のカンファレンスに出るために友人に子どもを預けて夕ご飯を食べさせてもらったり、登園停止の病気になる時は遠方から親に来てもらったり、本当にいろいろな人に助けられてきたと思います。

子どもは二十歳の長男を筆頭に末っ子の三男(中二)まで4人(三男一女)おりますが、子育てしているというより、子どもと一緒に育っている感じです。(ホントか?)今日も三男に眉間のしわをチェックされ、「あんた達が苦労かけるからぞろーか!」と吠えた母です。まだまだ戦いは続きます。



# 春期実習●参加学生募集

鹿児島民医連では、春休みに病院実習に参加される医学生を募集しています。鹿児島生協病院をはじめ、各施設で1年生から実習生を随時受け入れています。研修医体験や、各科の医師についての実習はもちろん、スタッ



## 鹿児島生協病院●実習プログラム例

### 例① 研修医同行体験

1日目

2日目

午前	8:00	病院医局集合 実習オリエンテーション	8:15 医局朝礼参加 8:30 実習感想文記入後終了
	8:15	医局朝礼参加	
	8:30	朝カンファレンス参加 研修医体験 (研修医同行)	
	12:30	午前終了	
昼	12:30	昼食	
午後	14:00	内科カンファレンス	
	16:00	研修プログラム説明	
	17:00	午後終了	
夜間	22:30	深夜当直	

フ全員で医学生の实習をサポートしており、コミュニケーションについての実習も体験出来ます。お気軽にお問い合わせ下さい。



### 例② 気管支内視鏡+訪問看護体験

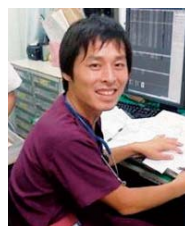
午前	8:00	病院医局集合 実習オリエンテーション
	8:15	医局朝礼参加
	8:30	気管支内視鏡見学
	12:30	午前終了
昼	12:30	昼食
午後	14:00	訪問看護同行
	17:00	研修プログラム説明
	17:30	実習感想文記入後終了





# 奄美だより

徳之島診療所



徳之島診療所  
後期研修1年目  
渡邊 正哉

(2012年入職/東京医科大学卒)

## Dr.コトローがここにいます！(ここは医療の原点)

2年埼玉の市中病院で初期研修をした後、僕は少し東北で医療ボランティアをし、南米を旅しながらボランティアをしていた。そして1年あまりの世界放浪を経て日本に戻った。医師としてのプランクがあり不安も多かったが、旅やボランティアを通し人々の絆や生命のかけがえのなさを学び、人命としっかり向き合って働ける職場を探したいと思った。そして、ネットの情報をつよみにひよんなことから徳之島に流れ着いた。

来てみてすぐに、ここだ！と思った。医療スタッフがみんな生き生きと、楽しそうに働いている。O・I・O才まですべての年齢層、内科、小児科、皮膚科、整形外科、耳鼻科等のほとんどの科を区別することなく一人の人間として患者を診ている。外来↓入院↓往診と一人の人すべてを自分が診ることができる。そんなところにぼくは惹かれた。実際働いてみると、ほんとに雰囲気の良い職場で職員みんなが島を大切に思っていることが伝わってきた。職場の楽しい雰囲気はその



まま患者さんを巻き込む。それ自体が患者さんの治療にもなっているのだ。そして、なにより

も患者さんとの距離が近い。元々、患者さんたちによって建てられた病院なので、自分達の病院と違った意識が強い。若い先生の診療にもいやな顔一つせずに『先生がんばって』とよく言われる。

今現在、そんな病院は日本全国でいくつあるだろうか？患者が病院を信頼してはじめて治療が始まるのだ。

また、長寿の島ということもあり患者さんから学ばされることも多い。9代になっても畑仕事をしているような本当に元気なお年寄りが多く、こちらもうかうかしてられないなとも思わされる。来る前は南の島でゆつたりと診療をしている感じを思い描いていたが、実際は病院の中は都会の病院顔負けなくらい慌ただしく症例の種類も豊富だ。ただ都会と違うのは診療所を一步出るとゆつたりとした時間の流れに癒される。都会の大病院

のように最先端の医療を提供できるわけではない、限りある検査や治療法でなんとかやっていたかなければならない場合もある。ガイドラインに沿った治療だけではなく個人個人にあった検査、治療法を考えることも多い。病気を診るのではなく患者さん(人間)を診るという忘れ去られがちな医療の原点を感じることができるのもこの魅力だ。

島での医療に少しでも興味ある人は一人でも多く見学、研修に来てほしいと思う。ここは自分を試すことができるし、いろいろな意味での成長が保証される。それを受け入れてくれる懐の広さがあるし若い医師を育てる土壌がここにはあると思う。

徳之島診療所の  
今がわかる！  
ブログにアクセス！



# 私の趣味

こんにちは、  
鹿児島生協病院  
研修医1年目の中村達郎です。

## Hobby List

#1音楽 #2読書 #3絵



#2 それまで活字は大的苦手で、読むのはマンガが基本だった僕ですが、高校3年の受験の時期から急に活字を読むのが好きになり、受験勉強そっちのけで小説を読み漁るようにになりました。模試

やっていたのは僕、ではなく、大学時代の同期です(笑)。この友人が言うとおり、苦しい思いやきつい思いをした時ほど、無事にやり終えたときの充実感はいくらも筆舌しがたいものがあります。みんなでひとつの音楽を作り上げるのも、何とも言えず楽しいものです。最近の仕事に追われて楽器をやる機会も中々ないですが、時間と人を見つけてまた何か音楽をやりたいなと考えています。

#1 島根で過ごした学生時代、オーケストラ部で6年間トランペットをやっていました。初心者から始めて下手くそでしたが、みんなで作る、演奏する音楽やアンサンブルはとても楽しいものでした。音楽は『海』に似ている。浅瀬で遊ぶのも楽しいけど、苦しい思いをして、深く深く潜っていくと浅瀬とは違う素晴らしい世界が無限に広がっていると言っていたのは僕、ではなく、大学時代の同期です(笑)。この友人が言うとおり、苦しい思いやきつい思いをした時ほど、無事にやり終えたときの充実感はいくらも筆舌しがたいものがあります。みんなでひとつの音楽を作り上げるのも、何とも言えず楽しいものです。最近の仕事に追われて楽器をやる機会も中々ないですが、時間と人を見つけてまた何か音楽をやりたいなと考えています。

#3 絵は昔から好きでよく描いていたんです。小学生の時は漫画家になりたいくて、何でもかんでもいたるところに悟空やベ

とかの現代文も問題の答えよりその先の話の展開が気になって仕方なかったこともありました(笑)。もし医者をやめたら本に囲まれていた図書館や本屋で働いてみたいと考えています。最近の時間に余裕があれば小説、忙しいときはマンガ(?)、必要に迫られると医学書、という感じで本を読んでいます。

ジータを書いてました。しかし、いつからか『漫画家は狭き門で、どうも飯を食っていきそじない』と子供ながらに感じたのが、より堅実な道を選ぶようになったみたいです。だから医者を選んだというわけではないですが…(笑)。



## 鹿児島民医連 奨学生募集。

### 奨学金制度の趣旨

この奨学金制度は、卒業後、鹿児島民医連の医療に参加される意思をもった医学生の皆さんに、その要望に応え勉学の経済的な援助を行う目的で設けられています。

### 奨学金制度の概要

●支給額：  
月額10万円(全学年)

●支給期間：  
奨学生の決定から卒業まで  
(※返済免除の規定あり)

お申込み・お問合せは随時受け付けています。  
メールでもお電話でも鹿児島民医連までご連絡下さい。



鹿児島民医連  
ホームページへ  
アクセス



# 医系学生サポートセンター の紹介



## Q 誰でも利用できるの？

医系学生であればどなたでも利用可能です。  
お気軽にお立ち寄りください。

## Q どういう利用ができるの？

- ①コピー機の利用ができます。
- ②医学書・文庫本・漫画等が閲覧・貸出できます。
- ③毎週火曜日に昼食会を行っています。
- ④パソコン・インターネットが利用できます。
- ⑤病院実習や奨学金の相談

全て無料

鹿児島民医連では医系学生の皆さんが日常的に活用でき、実習や大学生活の相談にのれるように、鹿児島大学医学部近くにサポートセンターを設置しています。

以前は「桜ヶ丘分室」として親しまれていましたが、2012年春にリニューアルし室内も明るく、広くなり、医学書、マンガも充実しています。昼食会や、学習会、授業の合間の休憩等々お気軽にご利用ください。

毎週行われている昼食会には新一年生も参加し益々活気あふれる場所になっています。まだ足を運んだことのない方は是非一度お越しください。お待ちしております。

## 昼食会のご案内

**いつ?** 毎週火曜日 11時30分～

**どこ?** 鹿児島大学  
医系学生サポートセンター  
桜ヶ丘8-22-6 TEL.099-264-5475

**料金は?** 無料

**申込は?** 不要。お気軽にお立ち寄りください

**誰でも行っていいの?**  
鹿児島大学  
医系学生の皆  
誰でもどうぞ



**メニューは?** 来てのお楽しみ♪  
担当者の  
手作り料理です



お問合せ先  
鹿児島民医連(099-266-1531)  
医学生担当：(川元、小倉、田中)

## アクセス編集後記

「春風や 闘志抱きて 丘に立つ」

高浜 虚子

春が近づくと、いつも思い出す、私の好きな句です。これは、虚子が俳壇に復帰した際に詠んだ、決意表明とも言える句です。

年が明け、受験生にとっては最後の追い込み時期となり、張り詰めた日々が続いたのでは、と思います。

先日、病院の先生たちとの会話のなかで、「今でも、大学入試や医師国家試験に落ちる夢を見る」という話題で持ちきりになりました。しかし、人生で最高に嬉しかった瞬間もやはり、「医学部合格や国試合格だ」とのこと。

先生によると、自分が克服したものは夢に現れるように、脳の仕組みがなっているそうです。

入試は、人生の通過点に過ぎませんが、やはり人生の一大事です。最後まで、張り抜いてください！

これからは、みなさんが頑張ってきた分、世界が広がります。沢山挑戦して、志の高い大学生活にしてください。

私たち、民医連も数々のフィールドを準備して、お待ちしております。

T

# ホームページの紹介

まずはアクセスしてみてください!

鹿児島県民医連の活動や各種企画の案内等がご覧頂けます。

ホームページURL <http://kagoshima-min.jp/>

鹿児島県民医連

検索

鹿児島県民医連  
ホームページへ  
アクセス→



## レジデントたちのモノローグ(ブログ)

鹿児島県民医連の研修医より、日常の出来事や、奮闘記、医学生向けの情報発信などがご覧いただけます。是非一度覗いてみて下さい。



ブログへ  
アクセス↑



編集／鹿児島県民主医療機関連合会

発行日／2013年2月

〒891-0141 鹿児島市谷山中央5丁目4-12

TEL.099-266-1531

FAX.099-266-1530

<http://kagoshima-min.jp/>

E-mail: [ligakusei@kagoshima-min.jp](mailto:ligakusei@kagoshima-min.jp)

## 民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の呼びかけ、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめる、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を認め、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

- 人権を尊重し、共同のいのちと健康を護り、医療と福祉をすすめる、人びとのいのちと健康を守ります
- 地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
- 科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
- 国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
- 人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。